

校長研修だより177

シリーズ「授業風景5」

～「人権学習」の実際～

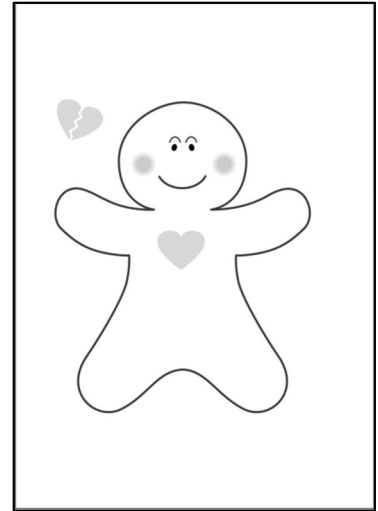
2024・11・27 重枝 一郎

ここから、「ピーイング」開始です。
まず、右の絵のようなワークシートが全員に配られました。

ここですかさず、重枝先生のプチ・SSTです。

「ワークシートを後ろの人に渡すとき、投げ捨てるみたいに渡したら、受けとった人はどんな気持ちになりますか？『どうぞ』『ありがとう』が大切です。本当に相手のことを考えるっていうことは、そういうことです。さりげない日常が最も大切なんです。それが学級目標に、必ず結びつくのです。大きなことではなく、小さな積み重ねをたくさんしていくんです」

そして、プリントの説明です。



「時間が短いから集中して、本気で書いてほしいことがあります。今ここに、絵が描いてあります。人と見せ合う必要はありません。自分で考えて書きます。この絵の身体の中に、人からされたり言われたりして、嬉しいことを書きます。日頃の生活から書いてほしい。逆に、身体の外には、されたり言われたりして、嫌な気持ちになることを書いてください。3分間です。よーい、始め」

生徒は真剣に書いています。

重枝先生は、小さな声でささやきます。

「身体の外には、してほしくないこと、言われたくないこと、本音で書いてください。はっきり書いてください」

生徒たちは、いろいろな言葉を書いています。

身体の内側には、「ありがとう」「ナイスプレイ!」「よくやった!」・・・・・・

身体の外側には、「いじめ」「暴力」「ウザイ」「キモい」「お前とかどっかいけ」・・

途中、重枝先生の厳しい声が、体育館に響きます。

「他の人を見るんじゃない。自分で考えて書けるはずです。自分でしなさい!」

重枝先生は、ねらっているのかもしれませんが、このタイミングを。生徒が自分自身で真剣に課題に向き合う、「本気」を引き出すために。

しばらくすると、手がとまっている生徒が少し出てきたようです。

「きっと、書きながら思い出して嫌な気持ちが出ている人もいるかもしれない。大丈夫だから。よかったら他の人のことを思って書いてもいいよ。

何でも、自己チューで考えるんじゃなく、自分のこと50%、人のこと50%です。それが、後々チームワークをつくります。あと2分です……」

時間になり、重枝先生は自分に注目させます。

生徒たちは、機敏に反応しています。

「はい、素晴らしい。これがみなさんのよいところです。さっき、学級委員が発表したり、〇〇君と先生がキャッチボールをしたりしたけれど、そのことを通していい気付きをしています。みんなが聞いてくれないと、前に出た人はツライのです。前に立って話している人は、聞いている人のおかげで話ができます」

ここからは、グループ活動です。

重枝先生が移動の指示を出します。

「クラスの班でかたまって、小さな円になって座ります。体育館いっぱい広がってかまいません。集まったら班長さんが、前に来て下さい。そこまでを30秒でやるよ」

生徒たちは、授業の最初から繰り返し言われている「協力」「団結」を意識して、動いているのでしょう。280人がスムーズに移動し、班長は模造紙1枚、マジック2本をもらって、自分たちの班に戻ります。

ここで重枝先生から、的確な指摘があります。また、プチ・SSTです。

「今、みんながとった行動について、一つだけ振り返ります。最初に来た班長さんに、先生は小さな声で、模造紙1枚とペンを2本取ってくださいと言いました。後から来た班長さんたちは、それを見て判断してほしい。もしくは、お互い伝え合って、判断してほしい。もっと言えば、給食の配膳のように並んだり、最初に来た班長が配布したり、自分たちでスムーズに流れをつくってほしかった。協力するということは、そういうことでしょう。今、みんなが一生懸命しようとしていることは先生にも伝わっています。それは、中学〇年生としては合格点。ただ、これがベストではない。もっとみんななら、上手くできると思う。もっとお互いのことを、思いやれると思う」

こうして、生徒たちに自分の行動を振り返らせながら、きめ細やかに、「協力」「団結」するということは、具体的にどうすることなのかを教えています。

これが、キラリと光る重枝流の極意だと思います。

このきめ細やかさが、結構、抜けてしまうのです。

学級経営においても、授業においても。

《次回6に続く…》